

感染症対策特記事項

(基本事項)

第1条 乙は、感染症対策の重要性および医療機関内での感染拡大の重大性を十分に認識し、この契約による業務の実施にあたっては、感染症の罹患および院内での感染拡大により甲の業務遂行を侵害することのないよう、感染症対策を適正に行わなければならない。

(入職時検査およびワクチン予防接種の促進)

第2条 乙は、新規に職員を医療機関に常駐勤務させる場合は、該当する職員に対し、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス（おたふくかぜ）の抗体価の検査を行うように努めること。

2 乙は、前項の検査により、抗体価の低い職員について、ワクチン接種を実施するよう努めること。

3 業務従事者に対し、インフルエンザワクチンの接種に努めること。

4 乙は、甲の求めに応じて、該当する職員の抗体検査結果、ワクチン接種の状況が確認できる資料を提出すること。

5 本条第1項から4項までに係る一切の費用は、乙が負担すること。

(感染対策の徹底)

第3条 乙およびその従業員は医療機関での業務であることを十分に認識し、マスク着用の徹底、手指消毒や3密の回避といった一般的な感染対策を自覚的に徹底するものとする。

2 甲の事業所で常駐勤務する乙の従業員については、勤務前及び勤務後の検温及び健康観察を徹底するものとする。

(感染が疑われる際の対応)

第4条 乙は、甲の事業所で常駐勤務する乙の従業員について、前条第2項の検温及び健康観察で異常が発見された場合、医療機関で異常を診断された場合もしくは従業員本人から異常の連絡があった場合は、該当する職員を甲の事業所で勤務させないものとする。

2 乙は、前項の勤務停止が発生した場合は、速やかに甲へ通知するものとする。